

オピニオン

愛知淑徳大学
ビジネス学部准教授

三矢 幹根氏

オープン
カレッジ

少子高齢化がますます進行する日本では、現役世代が退職世代を養う現在の年金制度は今のままでは維持できない。年金給付開始年齢を引き上げるか給付額を減らす

みつや みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式トレード技術。ドイツ銀行。英国リーズ大学経営学大学院・MBA(Finance)。1959年生まれ。

実学の株式投資技術の必要性

か、あるいはその両方が必要となるだろう。その一方で人の寿命はどんどん長くなっている。多くの人は退職後わずかな年金だけで85歳や90歳まで生活していくのは金銭的にとても困難となることを思い知るだろう。老後の生活で不

知恵と技能が年金不足補う

そのためには金融リテラシーを高めることは必須条件だが、これも学校教育では殆ど教えてくれない。しかし、金融リテラシーを高めたとしてもそれだけでは不十分である。株式投資はビジネスである。知識を得たからと言ってそれだけで必ず成功できるほど甘くはない。株式投資で成功するためには、絶対に必要なことがある。それは「知恵」と「技能」が融合した投資「技術」の習得である。

実際、株式投資で成功し続けるのは難しい。個人投資家は投資と聞いて実期間は短く「トレード」を行

ときに常に買いから始めることが間違いないのである。下げ相場で買いポジションを持つは損をするのは当然である。下げ相場ではまず売りポジションから始め、下げ切ってから買い戻して利食い、ここで初めて買いポジションを取るのが正解であり、これができることが「技術」である。個人投資家が常に考えるべきは、今どの銘柄を売ったかではなく、相場全体と対象銘柄は上げ相場なのか下げ相場なのかという相場の大局観であり、真に習得すべきは相場の波に乗る「実学」たる株式投資技術なのである。